

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0572607380		
法人名	社会福祉法人 柏仁会		
事業所名	グループホーム ありす刈和野 (けやき棟)		
所在地	秋田県大仙市刈和野字愛宕下85		
自己評価作成日	令和3年8月20日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/05/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉事業団		
所在地	秋田市御所野下堤五丁目1番地の1		
訪問調査日	令和3年10月6日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

奥羽本線刈和野駅から徒歩5分ほどの街の中心部にあり、木をふんだんに使ったぬくもりもある明るく開放的な建物になっています。昔からの商店、スーパー、金融機関、病院などが徒歩圏内にあり地域の生活を身近に感じることができます。平成27年に複合施設として開所し障害サービス利用者さんと日常的に交流を持ち、行事や催し物を一緒に楽しみ笑顔多く過ごしていけるように工夫を凝らしています。コロナ禍で外出の制限がある中でも感染予防対策を徹底し施設内で楽しめるレクリエーションや季節を感じられる飾り付け、プランターの花やお菓子作りで一人ひとりが感性豊かな生活を楽しめるように支援しています。災害時や緊急時の体制も施設職員全員での協力体制が整っており利用者様、ご家族様が安心して生活できるように取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

高校生がクリスマスの飾りつけを手伝ったり、中学生が職場体験に訪問したり、小学生が車いすを掃除したり一緒にゲームを楽しんだり、農業高校郷土芸能部が活動を披露したり、学校との交流が実に盛んである。全利用者が毎回「一番風呂」との言葉どおり、一人入る毎に清掃し、お湯を交換している。湯温の希望や希望の時間帯に入浴できるよう配慮している。コロナ禍により面会が制限される中、利用者個々の笑顔の写真と担当者からの手書きのメッセージから近況を知ることができありがたいと家族から感謝されている。大きい声でゆつくりと、時々解説を入れながらの紙芝居は利用者からとても好評。毎年法人全体を対象とした家族アンケートを実施しており、分析評価され各事業の質の向上に反映されている。在宅時は表情が乏しかったが次第に笑顔が増え穏やかになったと家族から信頼されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～53で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
54	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	61	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
55	利用者と職員が、一緒にゆつたりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	62	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
56	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	63	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
57	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	64	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
58	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	65	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
59	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	66	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
60	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全ての職員が「自立と共生」の理念に基づき利用者様の生活が充実できるように実践している。	法人設立当初よりの法人内共通の理念である「自立と共生」を踏まえ、毎年度の事業計画等に具体的に反映されている。一人ひとりの個性や尊重していくケア、個々にあったスケジュール、その人らしい生活のリズムの継続等々、ホームとして目指すべき姿とは何かを具体的に聞き取ることができた。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の小中学校のボランティアの受け入れや、地域行事への参加、近所への買い物に出かけ交流を大切にしている。※新型コロナ感染拡大予防の観点より現在は中止している。	医療機関、図書館、郵便局、駅、市役所、スーパーマーケット、高校、中学校、小学校、商店街等々徒歩圏内に社会資源が存在しているうらやましい環境にある。高校生がクリスマスの飾りつけを手伝ったり、中学生が職場体験に訪問したり、小学生が車いすを掃除したり一緒にゲームを楽しんだり、農業高校郷土芸能部が活動を披露したり、学校との交流が実に盛んである。ボランティア体験者である地元高校卒業生が毎年数名就職している。重要無形民俗文化財 刈和野の大綱引きの補助縄編みに入居者が協力している。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	「認知症何でも相談所」を設置し地域の相談窓口として受け入れている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度の運営推進会議は新型コロナ感染拡大防止の観点から各委員に資料を送付し書面開催とし意見をいただいている。	利用者・家族・地域住民・介護保険事務所が参加しており、住民の避難訓練への参加や災害時のアドバイス等々、ホームに協力する姿勢等、ホームにとって貴重な参加メンバーとのこと。コロナ禍で新メンバーとの対面がままならず、感染が終息し、一日も早く対面での運営推進会議が開催できることを心待ちにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	高齢者包括支援センターや生活支援課の担当者と連絡をとりながら支援に取り組んでいる。	一人暮らしだった入居者が入院により退居に至り、日常生活自立生活支援事業の利用等を検討し、地域包括支援センターとの連携のもと、成年後見制度の活用に至るまでつなげた事例を確認できた。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3ヶ月に1回身体的拘束等適正化委員会、身体的拘束等の研修を計画的に実施し身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	福祉エリアありす刈和野身体的拘束等の廃止マニュアル、グループホームありす刈和野身体的拘束等の適正化のための指針が整備され、身体的拘束適正化検討委員会による全入居者のチェック及び話し合いにより、身体拘束をしないケアの実践に繋げている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	虐待防止について施設内で研修を行い、職員が目につくところに注意喚起防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業を活用し毎月面会に来ていただいていた。成年後見年制度について必要性があれば行政に相談しながら支援に繋げている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結の際は・解約・改定等の際は十分に説明し文書にて確認行っている。入居の際は利用者様・ご家族様より意見・要望を伺っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置やアンケートの活用で、利用者様・家族様より意見要望をいただくようにしている。意見・要望があった時は職員会議やサービスの質向上委員会で公表し改善できるように取り組むようにしている。	コロナ禍により面会が制限される中、利用者個々の笑顔の写真と担当者からの手書きのメッセージから近況を知ることができありがたいと家族から感謝されている。毎年法人全体を対象として家族アンケートを実施しており、分析評価され各事業の質の向上に反映されている。在宅時は表情の乏しかった利用者がホームを利用し次第に笑顔が増え穏やかになったと家族から信頼されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議を月に1回、調整会議を週に1回開催し、職員は意見や提案を述べられるように取り組んでいる。	業務マニュアルをもとに、よりやり易い方法の提案や、連絡ノートを活用しての利用者個々の対応の留意点等々、日々の業務での気づきや思いを共有している。毎年、思いや気づきを申告書に記入し、個別面談を実施している。また、必要に応じて随時個別面談を実施している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が意見や要望を述べられるように個人面談の機会を設け職場環境・条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修はDVDを使い毎月学習している。外部研修にも参加している。資格取得を目指す職員には研修を受けやすいように配慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会等で情報交換などの機会を作りサービスの質の向上につなげていく取り組みに努力している。※今年は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点より相互訪問は中止している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス提供開始前に本人の訴えを傾聴し、職員でケアの方向性を話し合い本人の望む生活ができるように、信頼関係が築けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族からの要望、心配事、不安なことを聴き家族も安心できる生活が継続できるように努めている。		
17		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者が有する能力を十分に発揮できるように生活の中でできることは協力いただき信頼関係が築けるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	新型コロナ感染予防対策の為、家族との面会や外出は禁止されているが、電話等で日常の様子を伝え、家族との繋がりが希薄にならないように努めている。毎月、日常の様子の子の写真を郵送している。		
19	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナ感染予防対策で面会や訪問にの自粛しているが、リモート面会の体制も整え家族や親類、馴染みの関係が途切れないように努めている。近況のニュースレターの送付も続けている。	近所の方が訪問し共にお茶を飲んだり、散歩中に声をかけてもらったりと交流がある。お墓参りや馴染みの美容院に家族と出かけている。徒歩圏内に多くの社会資源が存在し、散歩コースには事欠かない環境にある。	
20		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者は日中はリビングで過ごしており、常に利用者同士が関わりも持っている。洗濯物たたみ、食器拭きなど、お互いに声を掛け合って取り組んでいる。		
21		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後でも、経過をフォローし、いつでも家族の相談事には応じることを伝えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
22	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前に本人の習慣や生活歴、趣味、拘りたいこと等を聞き取り、その人らしい生活が続けていけるように努めている。	入居前のアセスメントに加え、家族から日課やこだわり、起床時間、生活パターン等々を詳細に聞き取りしている。何を喜び、何が心地よいのか、その人らしい生活の実現に向け取り組んでいる。	
23		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族からの情報、利用者さんとの日常の会話の中からの情報収集に努めている。		
24		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の介護記録、申し送り記録から情報を共有し一人ひとりの現状の把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画作成前に、本人、家族からの要望や意見を伺い、関係職員と話し合い意見交換を行っている。本人の意向に近づけた介護計画書を作成している。	各ユニットに計画作成担当者が配置され、申し送りノートやケース記録をスタッフ間で共有。朝の申し送り時の内容等も活用し、本人がより良く暮らすための現状に即した介護計画の作成につなげている。	
26		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に日々の様子を記録し職員で情報を共有している。担当職員が毎月のモニタリングで介護計画書に沿ったケアが出来ているか確認し、気づきを連絡ノートを活用し職員間で情報共有している。		
27		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナ感染予防対策の為、外出の自粛はあるが、近所には商店やスーパー、地域交流館、図書館がある。希望時は職員が買い物や図書館で本を借りたり生活を楽しむように支援している。		
28	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医や協力医院の定期受診・基本健診・予防接種など行っている。新型コロナワクチン接種も協力医院よりスムーズに行われた。協力歯科医院とも入れ歯の調整や口腔ケアについて相談し必要な治療を行っている。	かかりつけ医は徒歩で行ける距離にあり事業所開設当初よりの付き合いである。かかりつけ歯科医院が廃業したが、新たに他の歯科医院に協力していただいている。長い付き合いである薬局とも顔の見える関係を維持している。	
29		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設看護師が、毎日バイタル測定や利用者の健康状態の観察を行っている。内服変更や日常の関わりの中での気づきを看護師に報告・相談し医療との連携が迅速にとれるよう支援している。		
30		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際は病院関係者と情報交換し、家族と連絡をとりながら早期退院できるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に重度化した場合の対応に係る指針について説明している。終末期のあり方については本人、家族と十分な協議を得て、地域の医療と連携をとりながら支援に取り組んでいる。	「医療連携体制の概要」及び「重度化した場合の対応に係る指針」により入居時説明し同意を得ている。看取り加算の対象ではないが、できる限り家族の意向に添い、可能な限りホームで過ごしてもらおうよう対応している。家族からもできる限りホームで生活させたいとの意向が多く、過去数件の看取り経験を有する。	
32		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は救命救急研修を行っている。急変時の対応や連絡体制についてもマニュアルを作成し手順を何度も確認、実践力も身に付けている。		
33	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災、災害時は地域住民、地域の消防団の協力を得られるようにしている。7月に日中想定火災避難訓練を実施と洪水時の避難についての説明も行っている。洪水時の避難確保計画も作成し体制を築いている。11月には夜間想定避難訓練も行う予定である。	100年に一度は雄物川が氾濫しているとのことで、垂直避難や浸水しない高台の避難場所を考慮している。運営推進会議の委員である参加住民の中に災害について見識を有する方がおりアドバイスや避難訓練への参加協力があり、貴重な存在であるとのこと。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
34	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の人格を尊重し、不適切な言葉かけが内容に勉強会も行っている。	生活歴や性格、思いを把握し、個々の生活を継続できる支援に心がけている。症状が進み、危険回避につながる場合は、もう一度原点にかえることをモットーとしている。いつも外で畑仕事をしたり、山によく行っていた方と公園にマンツーマンで外出したりした際にはアケビを見つけ、いつにない笑顔を見せてくれたとのこと。	
35		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、本人の要望や思いを訪ね自己決定できるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの個性や生活のペースを尊重し、その人らしい生活が送れるように支援している。		
37		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節にあったおしゃれや個性や拘りを大切にし、おしゃれを楽しめるように支援している。定期的に理容師さんが来所し好みの髪色に染めてもらったり好みのヘアスタイルにってもらっている。		
38	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は施設内の厨房で作られるが、月1回の給食会議で利用者さんからの要望や食事の感想を伝えている。食前のテーブル拭きや食後の食器拭きなど職員と一緒に利用者さんも行っている。	入居者の感想や希望に添うよう心がけており、ソフトクリームを調達し、振る舞った。百歳の誕生祝いには、厨房一同と書かれた立派なお品書きを作成し、誕生者には特に豪華なお膳が提供された。	
39		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養チェック表に毎日食事・水分摂取量を記入している。一人ひとりの状態を把握し食事形態の変更や嗜好に合わせられるように支援している。		
40		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔内が清潔に保たれるように嗽・歯磨きを行い、就寝前には入れ歯の消毒を行っている。		
41	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、一人ひとりの排泄パターンを把握し排泄の声掛け誘導、ポータブルトイレの設置で自立に向けた支援を行っている。	夜間のみポータブルトイレを利用している方は数名。トイレでの排泄を促すよう特に配慮している。入居前にリハビリパンツを利用していた方が布の下着へと変化した事例も確認できた。オムツ等は家族の持ち込みを基本としている。	
42		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳飲料、ヨーグルト、オリゴ糖を食事や飲み物に取り入れ、体操や散歩、入浴時の腹部マッサージ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	健康状態を確認し本人の希望に沿って午前・午後入浴を楽しめるように支援している。本人の習慣や拘りに合わせた入浴を工夫している。	全利用者が毎回「一番風呂」との言葉どおり、一人入る毎に清掃し、お湯を交換している。職員側の都合を優先せず、湯温の希望や希望の時間帯に入浴できるよう配慮している。入浴剤やシャンプー、ボディークリームも自分好みのものを使用できる。	
44		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの就寝時間の把握、室温、湿度、照明、寝具の好みに合わせ、安眠休息に向けた支援を行っている。希望あれば使い慣れた枕や寝具の持ち込みにも応じている。		
45		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された薬のしおりをファイルし職員がいつでも確認できるようにしている。処方の変更になった時は記録に残し、副作用や変化について医療関係者に連絡するように努めている。処方薬についての情報は看護師にも伝え情報共有している。		
46		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴を把握し本人の能力に応じた趣味活動、得意なこと、楽しみごとの継続支援に努めている。		
47	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	現在は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から外出や地域の人々との交流は自粛しているが、例年であれば花見や紅葉ドライブ、地域のお祭り見学に出かけていた。近隣の道の駅や、地元直売所の利用、家族と温泉に出かけることもあった。	外の空気を吸うことの重要性を認識し、天気の良い日は出来るだけ散歩に出かけている。商店街に出かけ、産地直売品を購入する等、外出先には事欠かない環境にある。敷地内にかまくらを作成し、数多くの手作りミニぼんでんが飾られ、入居者もかまくらに入って、この地域ならではの趣向を楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いは施設で管理しているが、個人の能力に応じ自己管理できる範囲のお小遣いを所持している方もいる。感染予防対策の為、買い物は職員が代行したり、必要なものはカタログを見て選び買物を支援している。		
49		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が希望があれば電話ができるようにしている。また、年賀状や手紙の通信支援も行っている。		
50	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は清潔に保たれ不快な刺激がないように配慮している。毎月、利用者と職員が四季折々の飾りつけを行い、季節感を感知居心地よく過ごせるように工夫している。	特に季節感が感じられるよう工夫しており、壁の一畳ほどの貼り絵は、毎月季節ごとのテーマを決め、みんなで作成している。当日は、ユニット入口にきれいなススキと紫式部が秋を醸し出していた。環境美化委員会がプランターでの花の栽培に取り組んでいる。	
51		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのソファで思い思いに過ごせるようにソファの配置や座席に配慮している。		
52	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には利用者が自宅で愛用していた家具の持ち込みや家族の写真、人形やぬいぐるみ等が置かれ自宅に近い環境で居心地よく過ごせるように工夫している。	タンスと吊り台、エアコンが備え付け。ベッドは介護用を備え付けしているが、希望により使い慣れた物を持ち込むことができる。あえて畳の上に布団を選択する方もいる。テレビや家族の写真、使い慣れた椅子を持ち込んでいる。民謡が好きな入居者の部屋は民謡のCDがたくさんあった。	
53		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	カーテンの開閉、日めくりカレンダーの交換、プランターの水やり等、利用者が役割を持って自立した生活が送れるように工夫している。		